授業改善サポーターの資質・要件に関する

調査報告書

令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」
一般社団法人　全国専門学校教育研究会　授業改善サポーター養成講座開発委員会
「教職員の資質能力向上に必要な教職員研修プログラムの構築・普及・推進」

目次

内容

1. 概要 3
2. 趣旨・目的 3
3.「授業改善サポーター」の定義 3
アンケート調査結果 4
4. アンケート調査結果 5
4.1. 調査概要 5
4.2. 調査対象 5
4.3. 調査日程 5
4.4. 調査手順 5
4.5. 質問項目 6
4.6. アンケート調査結果 8
半構造化インタビュー結果 26
5. 半構造化インタビュー結果 27
5.1. 調査概要 27
5.2. 調査対象・日程・方法 27
5.3. 質問項目 28
5.4. インタビュー調査結果 28
6. 分析結果と考察 37
6.1. 授業コンサルティングへの要望とニーズ 37
6.2. 授業コンサルティングを行う上での「やりやすさ」や「有効性」 38
6.3. 授業コンサルティングにて困難な点 39
6.4. 授業コンサルティングにあたり実施されている具体的な指標や評価方法 39
6.5. 授業コンサルティングにあたり今後取り組みたい課題や改善点 40
7. 結論 41
8. 資料 43

1. 概要

この調査は、文部科学省委託事業　令和 5 年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」における 3. 授業改善サポーター養成講座開発委員会「教職員の資質能力向上に必要な教職員研修プログラムの構築・普及・推進」の取り組み（以下、「本事業」）の一環として実施されたものである。

本事業では、授業の観察や評価、教員のカウンセリングやコーチング、授業改善に関するアドバイスや提言の提供、教員の授業計画や教材の開発支援等ができる人材「授業改善サポーター」を育成することを目指す。そのために①授業改善サポーターの資質・要件に関する調査の実施、②暫定版授業改善サポーター養成講座の開発・実施、③講座実施後のリフレクション情報の収集をすることで、自校の職員の指導力向上に向けた課題等を把握し、必要な研修を企画設計するための手順や必要な知識、スキルを学ぶことを目指す。

本調査報告書は、授業改善サポーターの資質・要件を明らかにするために、授業改善サポーター養成講座開発委員会により実施した一般社団法人　全国専門学校教育研究会に加盟している専門学校 123 校のうち 56 校 64 件のアンケート調査と、教務責任者 3 名を対象とした半構造化インタビューの結果を分析・検討したものをまとめたものである。

2. 趣旨・目的

本調査報告書は、授業改善サポーター養成講座の開発に向けて、授業改善サポーターに必要な資質・要件を明らかにすることを目的とする。

3.「授業改善サポーター」の定義

「授業改善サポーター」とは、授業の観察や評価、教員のカウンセリングやコーチング、授業改善に関するアドバイスや提言の提供、教員の授業計画や教材の開発支援等ができる人材のことを指す。また、「授業改善サポーター」が、自校の知見のみならず、他校の知見も共有することにより効果的で質の高い教育を実施することを期待されている。

なお、「授業改善サポーター養成講座」は、「授業改善サポーター」を育成するために実施した 3 回にわたる研修である。

アンケート調査結果

4.　アンケート調査結果

4.1. 調査概要

2023 年 8 月 17 日（木）から 9 月 8 日（金）にかけて、一般社団法人　全国専門学校教育研究会に加盟している専門学校 123 校における教務責任者に対して依頼し、アンケート調査を実施した。アンケート結果は、自動集計用 Web アプリケーション（Google Forms）を利用し、集計した。

なお、アンケート調査項目については、本事業の実態調査ワーキンググループにて検討したうえで確定し、アンケート調査結果についても、同委員会にて分析・検討を行った。

4.2. 調査対象

一般社団法人　全国専門学校教育研究会の加盟している専門学校 123 校における教務責任者

4.3. 調査日程

アンケート調査への回答時期：令和 5 年 8 月 17 日（木）～令和 5 年 9 月 8 日（金）

4.4. 調査手順

アンケート調査の実施手順は以下のとおりである。

（1）アンケート調査対象の確認と整理

・一般社団法人　全国専門学校教育研究会に加盟している専門学校 123 校の名称、
　宛先の確認と送付

（2）アンケート調査項目の検討と整理

・授業改善サポーター養成講座開発委員会 第 1 回ワーキンググループ
　（令和 5 年 7 月 27 日（木））にてアンケート調査項目を検討

・委員からのアンケート項目案への修正・追加等の意見を反映

(3) アンケートフォームの作成

・回答を容易にするため、アンケート結果の自動集計用 Web アプリケーション
（Google Forms）を用いたアンケートフォームの作成

・アンケートフォームの URL は、アンケート依頼文（巻末参照）と共に送付

(4) アンケート調査への回答を依頼

・アンケート調査への回答期間：令和 5 年 8 月 17 日（木）～令和 5 年 9 月 8 日（金）

(5) アンケート調査結果の分析・検討

・授業改善サポーター養成講座開発委員会 第 2 回ワーキンググループ
（令和 5 年 9 月 25 日（月））にて分析・検討

・授業改善サポーター養成講座の方向性の検討

4.5. 質問項目

・学校名
・ご担当の学科・コース
・現在の役職について教えてください。
・どのような業務を中心にされていますか。
・（回答者は）他の教員の授業のサポートなどはされていますか。
・貴校の取り組みの中で、授業コンサルティング（授業改善支援）は実施されていますか。
・どのくらいの頻度で行っていますか。
・授業コンサルティングを実施するにあたり、
どのような方法やアプローチを使用していますか。（複数回答可）
・授業コンサルティングを実施する主体として、専門の部署・チームは存在していますか。
・他教員からの授業コンサルティング内容への要望やニーズは
どのようなものがありますか。具体的なテーマや領域を教えてください。
・授業コンサルティングを行う上で、「やりやすさ」や「有効性」を実感している場合、
その理由を教えてください。
・授業コンサルティングにおいて直面している課題や困難な点はありますか。
もしあれば、具体的に教えてください。
・授業コンサルティングを受けた教員から、（授業コンサルティングを実施した教員への）
実施内容に関するフィードバックや評価はありますか。
・授業コンサルティングを受けた教員からのフィードバックや評価に基づき、
（授業コンサルティングを実施する教員が）授業コンサルティングのアプローチ方法や
スキルを改善する機会・取り組みはありますか。

・授業コンサルティングの成果や効果を評価するにあたって、
　実施されている具体的な指標や評価方法を教えてください。
・授業コンサルティングに関連して今後取り組みたい課題や改善点はありますか。
・今後開発する研修に対する要望や意見などあれば教えてください。

4.6. アンケート調査結果

実施者

：一般社団法人　全国専門学校教育研究会

事業名

：文部科学省委託事業　令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」「教職員の資質能力向上に必要な教職員研修プログラムの構築・普及・推進」

アンケート調査への回答期間

：令和５年８月 17 日（木）～令和５年９月８日（金）

依頼数

：123 校

回答者数

：56 校 64 件（その他１校）

（1）担当の学科・コース

・医療系学科：12 名

（医療事務、医療福祉ビジネス、理学療法、歯科衛生、看護、鍼灸・柔整、介護福祉コース）

・美容系学科：4 名

（ビューティーコーディネーター、美容、トータルビューティーコース）

・公務員系学科：5 名

（公務員、公務員ビジネス、公務員総合コース）

・ネットワーク系学科：6 名

（ネットワーク、情報システム、ＩＴエンジニア、情報ビジネス、情報、情報処理コース）

・経理・会計学科：2 名

（パソコン会計、税理士・経理ビジネスコース）

・ビジネス系学科：2 名

・自動車整備学科：3 名

（自動車整備、一級自動車整備・国際自動車整備コース）

・外国語系学科：2 名

（グローバルコミュニケーション、韓国語コミュニケーションコース）

・ブライダル系学科：1 名

・スポーツ・福祉系学科：2 名

・イラスト・ゲーム・アニメーション系学科：4 名

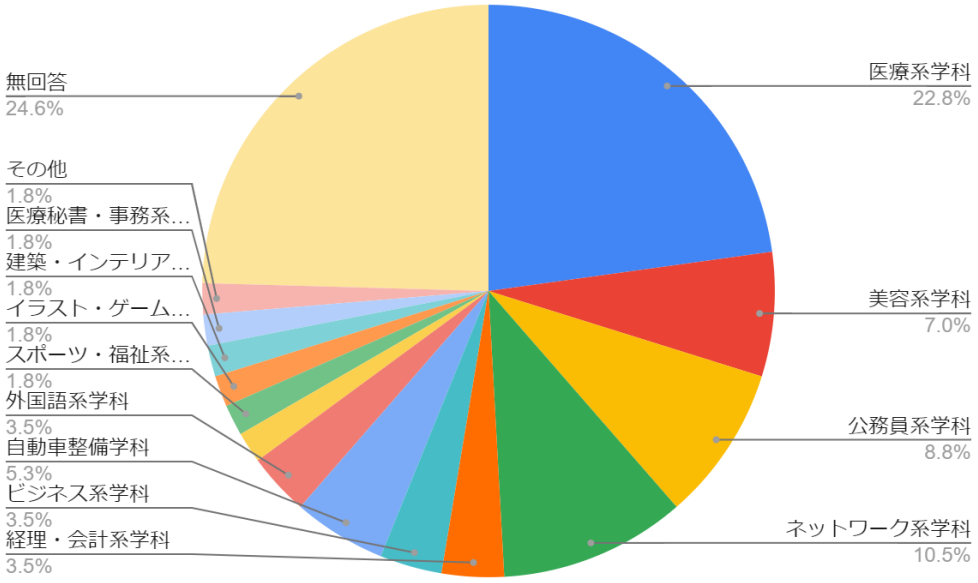
（イラストレーション、ビジュアルデザイン、ゲームクリエイター、キャラクターデザイン）

・建築・インテリアデザイン系学科：1 名

・医療秘書・事務系学科：1 名

・その他：情報ビジネス科・保健・医療ビジネスコース：1 名

・無回答：14 名



（2）現在の役職

・教務部長：16 名

・副校長：16 名

・教務課長：7 名

・校長代行：4 名

・課長：3 名

・学科長：3 名

・教務部長・就職部長：2 名

・教頭：2 名

・教務補佐：1 名

・顧問：1 名

・校長：1 名

・校長代行補佐：1 名

・主任：1 名

・総括課長：1 名

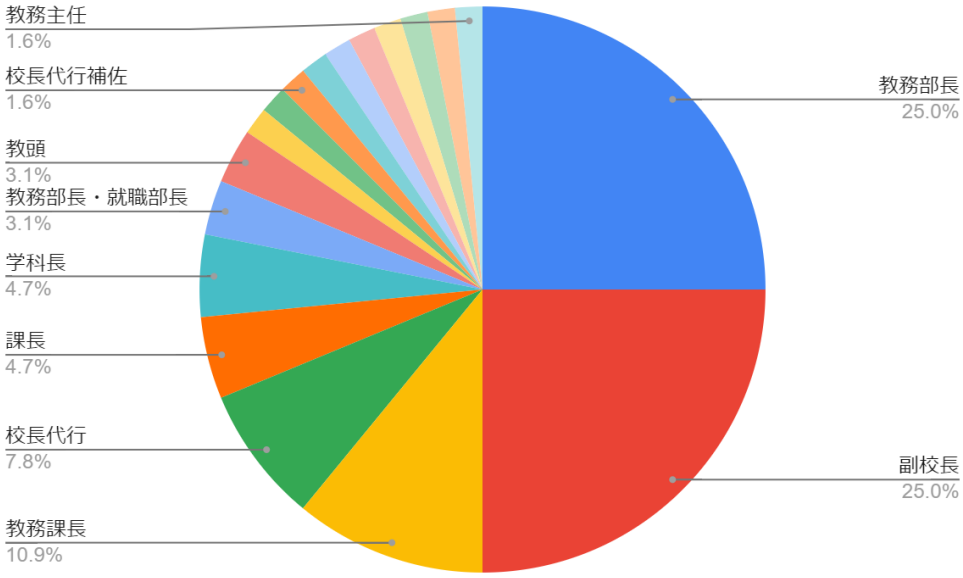
・部長：1 名

・副学科長：1 名

・副校長代理：1 名

・法人本部統括部長：1 名

・教務主任：1 名



(3) 業務内容（複数回答）

・校務業務（学校運営、教務とりまとめ、教務マネジメント、学校運営等）

・教務業務（成績管理、出席管理、月次報告等）

・授業

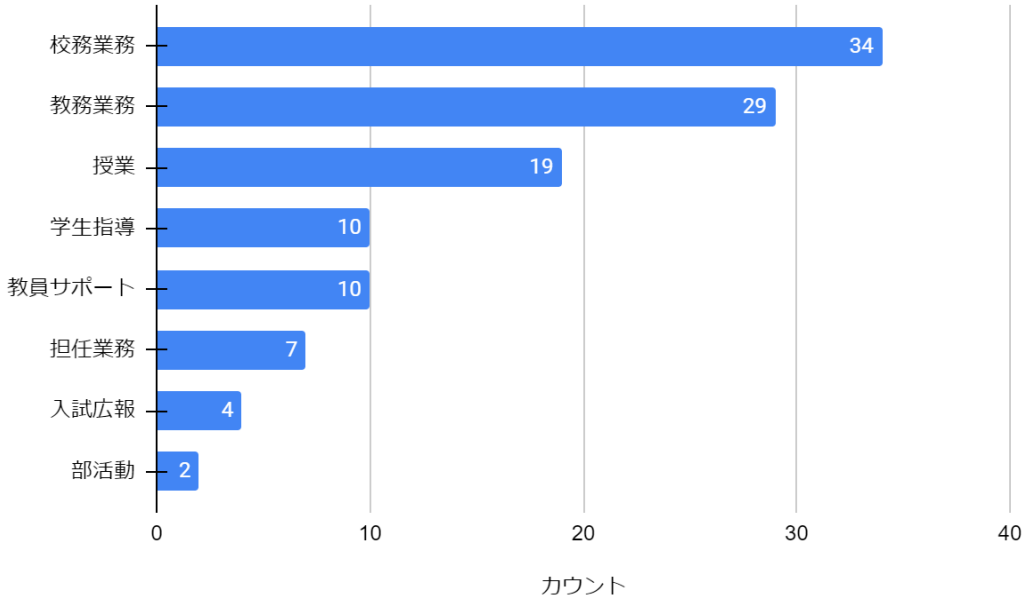
・学生指導（進路指導、学生状況把握と管理等）

・教員サポート（研修企画、新任教員サポート、校長サポート、アドバイス等）

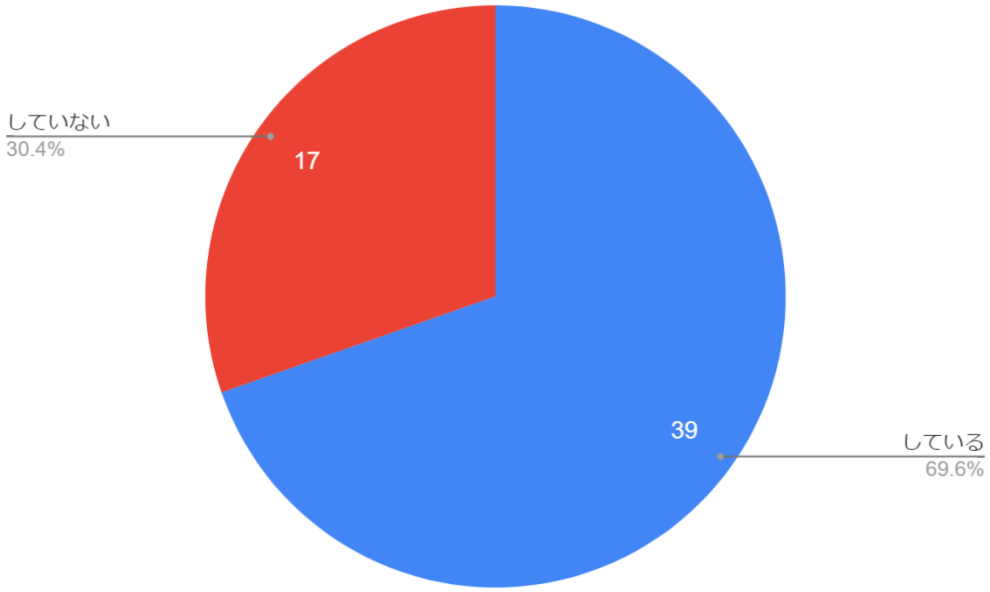
・担任業務

・入試広報（オープンキャンパス運営、入試広報等）

・部活動



(4)　(回答者は) 他の教員の授業のサポートなどはされていますか。



その他

・研究授業・参観授業への参加や開催

・若手教員に対してのアドバイス等はしています。

・状況に応じて必要な時のみ

・他学科へのサポートはないが学科内の教員間でお互いにサポートはしている。

・担当学科が主であり、他分野とは相談を受けるような場合に限られ関わりは低い。

・必要に応じてサポート

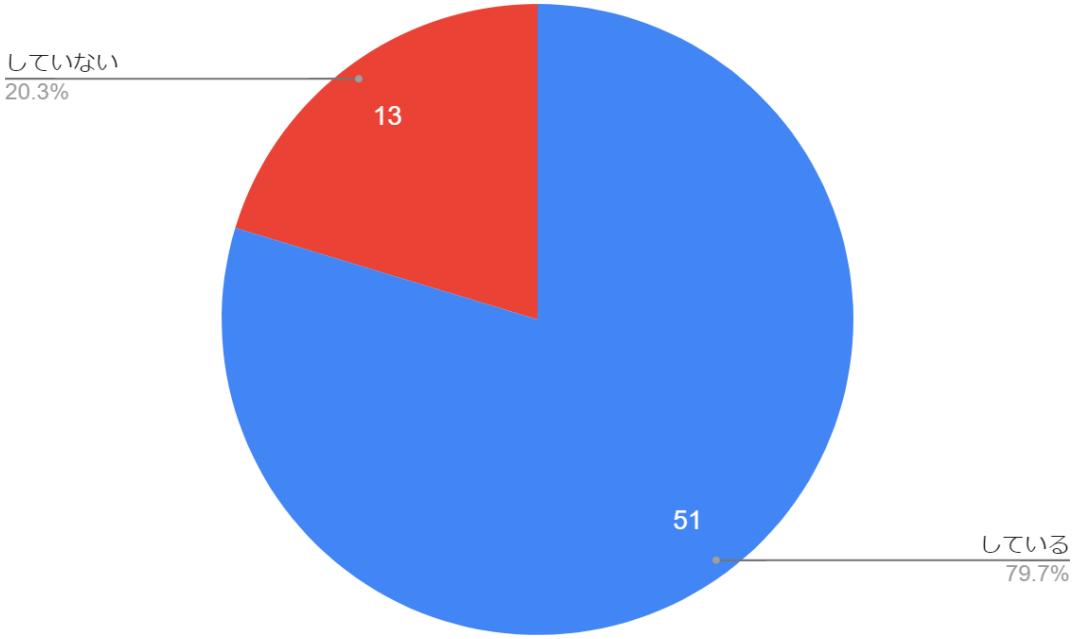
・面談やアンケート結果を通じて話す程度

・「している」とは言い切れない

(5) 貴校の取り組みの中で、授業コンサルティング（授業改善支援）は実施されていますか？

・している：51 名（79.7%）

・していない：13 名（20.3%）



(6) どのくらいの頻度で行っていますか？

・半年に 1 回: 20 名（39.2%）

・改善が必要だと感じた場合に都度行う: 19 名（37.3%）

・年に 1 回: 6 名（11.8%）

・月に 1 回: 2 名（3.9%）

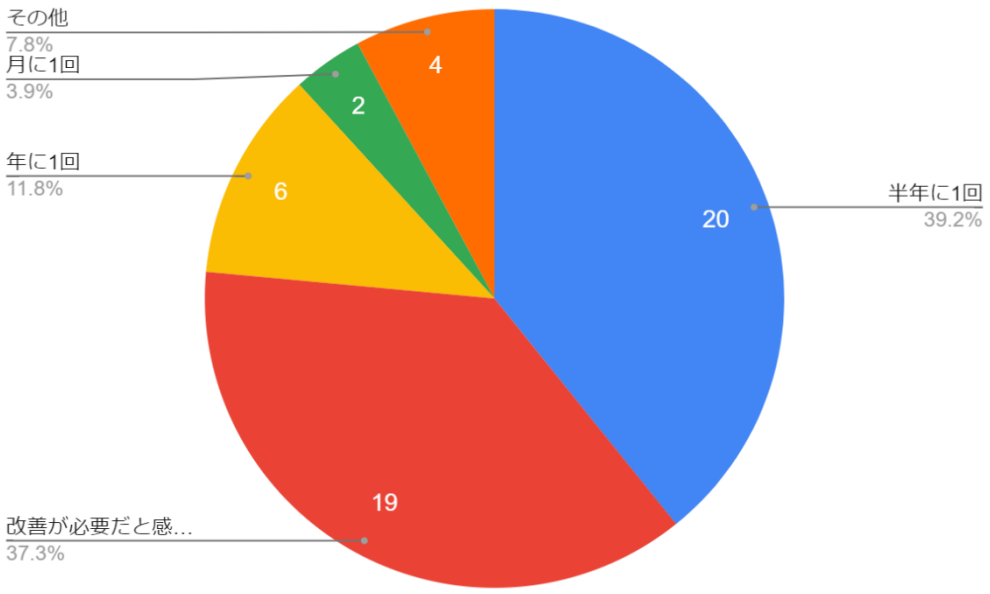
その他

・グループ校を含め年間実施計画に基づいて開催

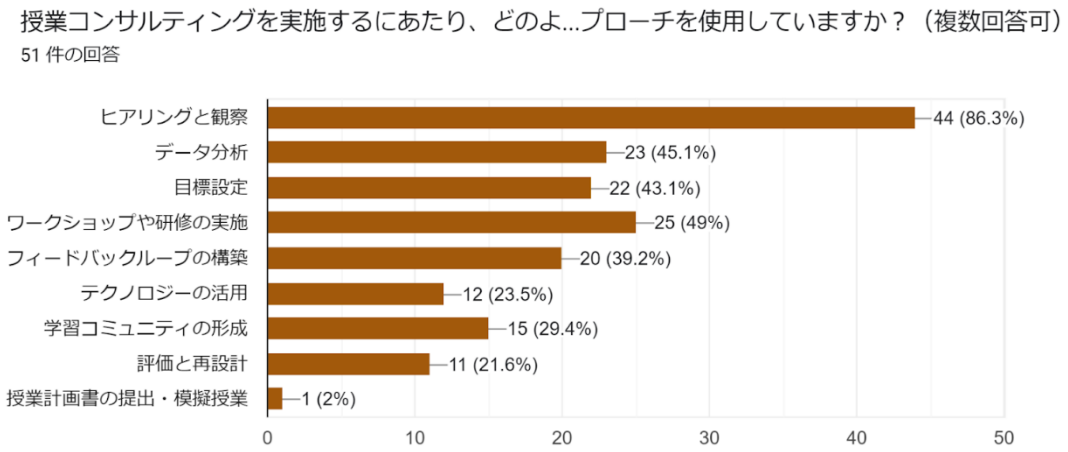
・教務全体に対しては年 2 回以上を基準とし、改善が必要な場合は都度行う。

・研究・参観授業時（年 10 回程度）、学生アンケート実施時

・入職後、必ず行っている。その後は都度相談に応じている。



(7) 授業コンサルティングを実施するにあたり、どのような方法やアプローチを使用していますか？（複数回答可）

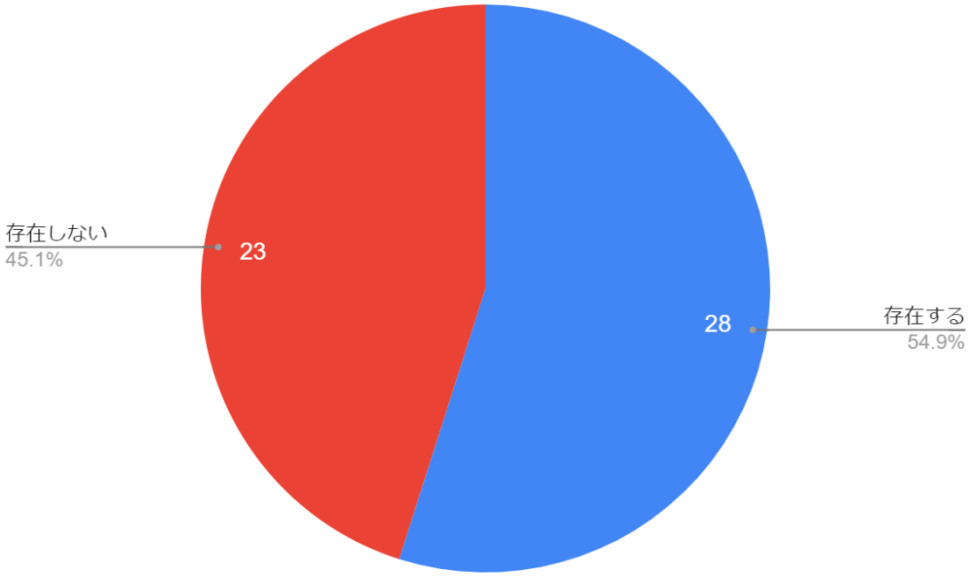


(8) 授業コンサルティングを実施する主体として、専門の部署・チームは存在していますか。

・存在する：28 名（54.9%）

・存在しない：23 名（5.1%）

・無回答：13 名



(9) 他教員からの授業コンサルティング内容への要望やニーズはどのようなものがありますか。
具体的なテーマや領域を教えてください。

学生対応に関わる要望・ニーズ

・モチベーションが低い学生の対応
・障害を抱えた学生や配慮の必要な学生の対応
・退学抑止、授業内での学生対応について
・多様化する学生に対しての授業の組み立て方とクラス運営
・学生レベル差がある学生対応
・学習への取り組みが苦手な学生への支援
・不登校への対応、低学力者への対応

就職に関わる要望・ニーズ

・企業が求める人材育成に合ったカリキュラムが実施されているか

授業内容の改善に関わる要望・ニーズ

・動機付け技術向上に関する内容
・授業全般の進め方、板書、教材の効果測定
・基礎医学（解剖学・生理学・運動学など）
・学生が主体的に参加できる授業の実施方法
・専門科目指導力、学生対応力の向上に向けて
・授業評価基準の明確化、改善手法のサンプル

・検定合格率の向上
・学生の理解度を上げる方法
・指導に有効な情報提供
・授業アンケートを実施し、個別にフィードバック
・研修プログラムとしての定期的実施や学外での研修参加等にも要望が多い
・他教員の授業見学の回数を増やし、自授業の工夫・改善の参考にしたい
・授業の質の向上
・模擬授業の見学・リフレクション
・授業参観で評価表を用い本人にフィードバック
・学生が授業について求める質
・試験問題・国家試験対策など
・実習授業の方法に付いて
・シラバスの内容と授業の構成に差異等はないか
・学生の動機付け、授業にひきつける方法など
・「教育とは」「休退学抑止」など

ICT 活用に関わる要望・ニーズ

・IOT 関連
・習熟度アップ
・ICT を活用した授業
・アクティブラーニング
・オンライン授業用の教材

ニーズに関する要望なし

・なし
・現状、他教員より要望・ニーズは出ていない

その他

・現在「ヒアリングと観察」「ワークショップや研修の実施」に当たる内容について常勤教員のみが対象となっているため、
非常勤講師に対しても実施した方がよい

（10）授業コンサルティングを行う上で、「やりやすさ」や「有効性」を実感している場合、その理由を教えてください。

授業評価・授業内容に関する理由

・研究授業での評価。一人で抱え込まず問題のある場合は職員会議等で共有
・授業アンケートと授業見学
・アドバイスの受け入れやその後の改善
・授業参観後のフィードバック。これは早ければ早いほど効果があると感じる
・コマシラバスを有効活用
・ヒアリングと観察、フィードバックループ、目標設定等に特に重点を置いているが、改善を行う教員にとって方向性や方法が明確となり有効である
・客観的に授業手法の向上が確認でき、フィードバックが的確に実施できる
・授業アンケートについてのコメント
・内勤職員は学期末に授業アンケートを実施。学生の授業に対する意見や、学生自身の授業に対する取り組み方について回答してもらい、データを集計。授業をより良くするため、上手くいっている部分と改善点を職員自身が把握することができるため、有効であると実感している
・授業アンケートを行うと学生達からの授業に対する感想や要望が取り込めるのは有効

個別対応に関する理由

・定期的に実施しているので、抵抗感を少なく取り組めるようにしている
・個別に面談形式で解決策・方針を示す

新人教員対応に関する理由

・新人への円滑な授業方法の指導、不安を除去
・新人に対する ID を基軸とした授業研修を入れたり、客観的に自分の授業を理解するために動画を撮影させての見学会なども行った。実感として教師も振り返りと向上意欲が上昇し、教師間の繋がりという意味合いでも有用性を感じた

組織・チームによる対応に関する理由

・組織的に取り組んでいるからやりやすい
・法人全体で取り組んでいるため、各校の複数のベテラン教員が

新人教員にアドバイスをする良い機会となっている
・有効性としてお互い相互に確認することで共有とそれぞれに成長を感じる
・他分野の教員の授業を見学することで、新しい発見や自身の授業に
不足していること、他分野の理解にもつながっていると感じる
・教員間の情報共有に関して教員不足から時間が取りづらい場合には、
職員室内での情報共有が有効である

（11）授業コンサルティングにおいて直面している課題や困難な点はありますか。
もしあれば、具体的に教えてください。

ICT 活用に関する課題
・ICT を活用しての授業ができるように勧めているが、
なかなか浸透しないところや難しい分野もあるので、
少しずつできることから取り組んでいる
特に問題と数多く解き解説となると板書の授業が多くなってしまい、
時間の無駄になってしまうところがある
・IOT 関連

教員不足による時間確保に関する課題
・教務人数が少なく、一人一人の業務量が多いため、
コンサルティングに費やす時間の確保が難しい点
・実習指導等、教員との業務調整が困難
・コンサルティングの量としても、現場を見ながらの対応となるため、専属の
ようにコンサルティングを確実に行える状況ではないことにも課題を感じる
・主任が担任をしていたりするので、全体を見るということが中々難しい

教員の姿勢に関する課題
・教員の能力や気質
・コンサルを必要とされる職員のみを対象にできない。
他の職員から見れば能力不足と見られはしないかと心配になる
・さらに飛躍しようとする熱心さの不足（仕事以外での自主的な資料研究など）
・変化を進化ととらえきれない保守派と推進派との融合
・ベテラン、中堅に対するコンサルティングは難しいと感じる
授業スタイルが固まっている教師に改善を求めるような

アドバイスはなかなか受け入れがたいものがあるとも感じる

・成果を実感できない

・指導される側が、批判されたと受け止めることを減らせない

・学生への対応の差

・アンケートでのデータ、学生意見が職員のやる気を失う場合がある

・長年教員として勤めている先生の中には自分のやり方が確立してしまいすぎ、改善が中々見えない場合がある。

・アンケート等で改善案がすぐに活かせる教職員もいるが、活かせない教職員もいる。「変われない」、「受け入れられない」、「気づかない」職員をどう向上させていけるかは大きな課題

組織体制・環境に関する課題

・専属のチームなどが存在しないので継続的にコンサルティングができていない

・随時対応になっており、体系化されていない

授業の内容改善に関する課題

・研究授業などの取り組みをしているが通常授業に活かされているのか？

・様々な分野に跨って授業評価を実施しており、座学や実習等といったように授業形態も様々であるため、評価やアドバイスが難しい場合がある

・授業改善支援を行った教員が改善した授業方法を継続して使用せず、自分がやりやすい方法（楽だと感じている？）授業方法に戻ってしまうこと

・複数の異なる専門分野を担当するためコンサルティングの内容が一般的なものになりがち

・教職員に対して、授業の現状や課題理解、実際の授業を観察することが出来ておらず、現場のニーズや改善点を把握できていない現状である。授業アンケート集計結果で確認している程度であるため、上手くいっている点なども含めて職員との面談を実施する必要がある。

学校環境に関する課題

・教員の育成についてシステム化されていない

・物理的に時間が足りず、手が回らない

・教育技術のツールやプラットフォームを導入する際の費用負担の増加

・アクセスのしやすさ、手軽に聞ける環境、誰が何が得意かの見える化

学生に関する課題

・学生の学習意欲の低下と精神的に弱い学生の増加

・学生のレベル差

・コンサルティングする立場ではないが、評価項目が授業によっては合わないものもあるため部分的に再考が必要かもしれない。

・クレームの多い学生への対応や、発達障害が疑われる学生の対応など過去にはあったが、複数の教員で対応するなど、教員１人で抱え込まないように対応している。

授業評価に関する課題

・専門外の科目について授業コンサルティングを行うことに課題を感じる

・効果測定が難しいと思います

・再評価や再設計

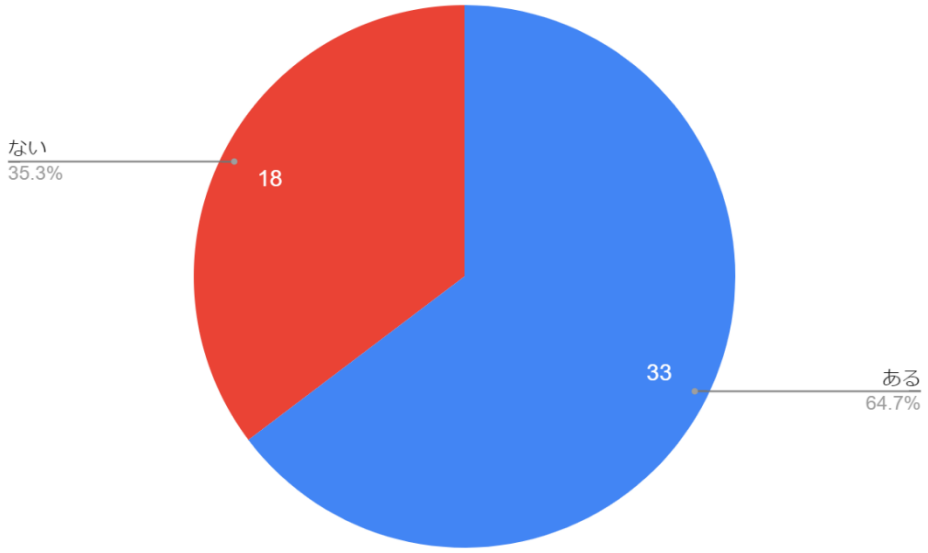
その他

・留学生対応

（12）授業コンサルティングを受けた教員から、（授業コンサルティングを実施した教員への）実施内容に関するフィードバックや評価はありますか。

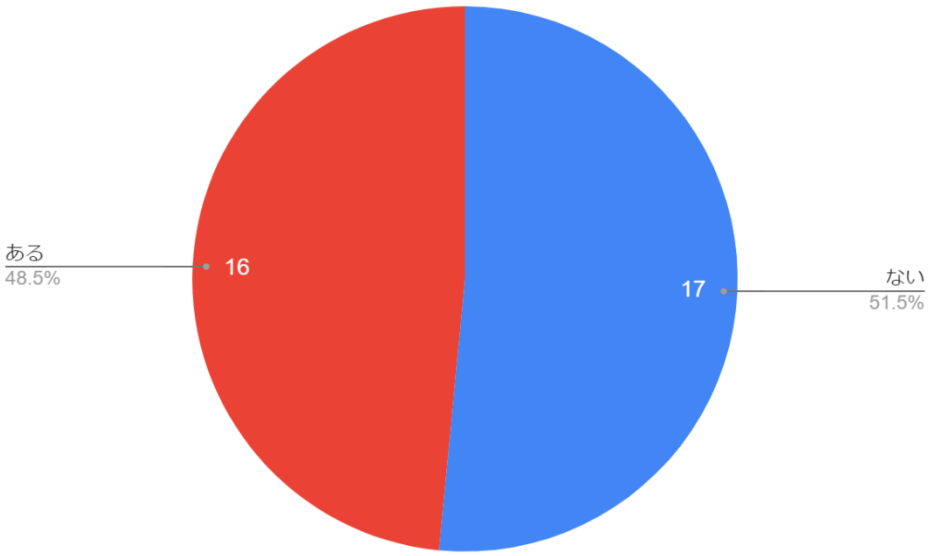
・ある：33 名（64.8%）

・ない：18 名（35.3%）



(13) 授業コンサルティングを受けた教員からのフィードバックや評価に基づき、
（授業コンサルティングを実施する教員が）授業コンサルティングのアプローチ方法やスキルを改善する機会・取り組みはありますか。

・ない：17 名（51.5%）
・ある：16 名（48.5%）
・無回答：31 名



(14) 授業コンサルティングの成果や効果を評価するにあたって、
実施されている具体的な指標や評価方法を教えてください。

・アンケートを実施。数値やコメントを参考にしている
・オリジナルの評価シートを活用
・モデル授業を行い検証と学生の教育の効果
・定期試験等検証していくプログラムの機会
・授業の様子を見に行く
・学生による授業アンケートおよびチューター制度の報告書
・KPI 設定
・学生評価
・定期的な技術指導チェック
・半期ごとの所定の報告シートで指標を確認
・話し方、態度、誘導の仕方、授業内容、知識分析など

(15) 授業コンサルティングに関連して今後取り組みたい課題や改善点はありますか。

指導力向上に関する課題

・教員の指導力向上
・取り組みたいことは授業を運営する側のティーチング、コーチング、
ファシリテーションの３つの理解度向上。知識だけを上げるのではなく、
体験を通した学びを職員へ提供することが授業力向上につながると考える
・特にないが今後対象教員が増えた際の仕組みづくり

学生へのアプローチに関する課題

・学生のモチベーション管理
・学習障害のある学生に対してのアプローチ
・学内での授業スキルの共有
・学生授業アンケートをオンラインで実施していますが、
回答率が下がった。動機付けが必要だと感じる
・プログラム、やり方をよく理解できていない
・その先生が行う授業について、内容の振り返りなど
・評価の基準として板書計画も含まれているが、
最近は IT 機器を活用した授業も増えてきたことで板書の機会が
ほぼ無い授業もあるため、その辺りの評価基準の見直しが課題である

教員の質を向上する課題

・新人教員だけでなくベテラン教員も定期的な底上げ（コンサルティング実施）
・まずは教員に対してヒアリングを行い、現状の課題理解が必要である
・授業のデザイン力を身に付ける方法、実践、教員の授業力向上など

授業改善に関する課題

・学外の有識者を一定数確保し評価を頂く環境
・職員間で授業を見学することで、改善点や良かった点をフィードバックすると
ともに、自身の授業運営に活かす。教員経験の長さに関係なく、職員全員が
目的意識を持って授業改善に取り組めるようになることを目標とする
・現状年 2 回程度だが、もう少し増やしていきたい
・授業アンケート後のフェードバックと評価

授業改善サポート頻度に関する課題

・もう少し時間をかけてのフィードバック

・定期的な実施
・現在、授業モニターという形で１年に１回常勤講師のみ対象に授業見学と面談を行っているが、事前に日時がはっきりしているため、いつも以上の準備をその時間に向けてしている教員がほとんどのように見受けられる
・見学時間の授業が全てではないため、はっきりと日時を決めず（おおよその期間だけでもよい）いつでも見学できるような形で１つの教室の滞在が短時間になったとしても複数回、それぞれの先生が担当する授業科目のいくつかを見れるようにしていけば、リアルな現状把握と改善支援ができるのではないかと思う。

組織体制に関する課題
・外部講師を招いての研修会。指導に悩む教員への相談会
・授業コンサルティングを組織的に行っていくべき。現在マンパワーの問題で１名がコンサルティングを行っている状況。
・教員同士が授業改善に向けて互いにディスカッションを進める体制づくり
・全員が授業を持っている場合が多く若手教員がどのように授業をしているか、見にいける機会が非常に少ない、もう少し余裕のある授業体制が必要に感じる
・専門の教職員を配置したい。
・フィードバックまで含めた取り組みが必要で、私自身が教務部長として職員を育てる意識、取組みが不足していたと感じる
・ナレッジベースの構築、気軽に支援できる体制、学生授業評価アンケートの改善と、現在の授業評価軸の改善

ICT に関する課題
・ICT を活用しての授業の進め方
・タブレットやインターネットを通しての学習や、課題提出等。
・保護者や学生とのコミュニケーション方法

（16）今後開発する研修に対する要望や意見などあれば教えてください。

他校の事例
・他校の取り組み事例を知りたい
・最近の教育評価指標など最新の研究課題
・授業改善に取り組んだ事例

・授業改善サポーターの育成に関する研修会の開催

ICT 研修

・クラウドベース、オンデマンドベースで
いつでもどこでもアクセスできるようなものが理想
・AI を活用した評価等 IOT 技術の更なる活用に向けた研修を受講してみたい
・オンライン、リモートでの対応、指導方法に関する研修を希望します
・IT 系講師の技術力向上及び教育力向上を目的とした研修

教員の質向上

・コーチングに関する研修を希望
・新人教員指導、中途採用教員指導について(マニュアルの情報交換など)
・指導力向上のための研修を実施して頂きたい
・授業改善サポーターについての研修をお願いしたい
・新入職員だけでなく、中堅以上の教員についても適切な授業が
行われているか、授業アンケートだけではなく、学校として
確認・評価・研修ができるようなシステムがほしいと考えている
・教員経験が長くなるほど、日々の業務に慣れが出てしまい、
授業内容や学生指導について改善する意欲が低くなる職員もいることから、
職員の『慣れ』を改善する研修をぜひ実施していただきたい
・各教員の経歴や経験に頼った授業を行っており、段階的・体系的に
教務力が向上するようなプログラム
・「ティーチング」「コーチング」「ファシリテーション」についての
継続研修。（３回～５回の研修でインプットとアウトプットを兼ねた内容）
・サポーター向けの指導方略、指導上で気を付けるポイントのようなものが
まとめられていると良い。専属で行っていないため、指導の指針を
合わせるためにも先生に指導するときに、こういったポイントに気を付けた方が
いい、といったような共通認識が持てればサポーター間の差も縮まり、
指導の底上げができるのではと感じる
・授業改善サポーター向けの研修（サポーター側の向上）
・授業コンサルティングとは何かについての研修（全教職員の意識改革のため）
・5 年～10 年以上キャリアがある教員の気づきとなるような研修が必要
・教員へのコーチング等、状況やタイプに合わせたアドバイス方法を知りたい

・新任講師や、学生指導に危うさを感じる講師をサポートできる
「現実的なプログラム」が欲しい。おおよそはコンサルティングやコーチング関係のガイダンスや研修、書籍でありがちな成果の曖昧な内容になる
・年数を積んでいるが、目標不明確な職員に対する研修
・コーチング研修等、教務陣としての心構えなど
・教職員のコーチング研修があれば参加してみたい
・管理職研修
・質保証のマニュアル

効果的な授業

・効果的な授業アンケートの設計方法が知りたい
・パワーポイント等でのプレゼン技術。発達障害等の理解や指導方法、クレームに対応できるコミュニケーション方法
・授業改善データの分析指標
・誰が教えても、同じ理解度にできる方法
・現場の先生方の意見をしっかり聞き、何が必要で何が必要でないのかを明確にしたうえで、よりよい授業運営ができるような研修内容の実現ができればと考える
・様々な「教授法」の事例研究
・授業アンケート後のフェードバックと評価方法
・評価基準・指標（ルーブリック等）
・新しい形での授業方法
・授業づくりや教育評価の基本的な考え方、学生の主体的学びの促進や疑問がもてたり、楽しさ（愉しさ）を感じてもらえる授業づくり等、教員自身が主体性を発揮し、たのしさを感じられる研修、何より教育観の醸成につながる研修
・教材があれば、それをきちんと理解し、その理解を深めるためのオンラインの研修があれば参加したい。また、集合型として実際の様子などを見る（見学）などしてみたい
・時間や人手不足である

学生対応

・多様化する学生が多くなっている中で専門教育としてのカリキュラムの目標や

指導の在り方など

・低学力者や心の弱い人に対する研修

・多様化する学生の性質を理解するまでに時間がかかることと、
どのように指導するとやる気が上がるのかなど、
学生の気質にあった声のかけ方などが知りたい

・学生への対応力を育成するプログラムの開発

・不登校や発達障害の学生への理解

・有効的なパワーポイント等の視聴覚資料の作成方法

・就職した者が何を目指して入ってきたのか、今必要なことは何か根本を
学ぶ研修、与えられた時間の使い方、自分軸と職場軸の融合

・学生との人間関係の構築について

その他

・サポートを受ける側がどのようなことを望んでいるかを知りたい

・効果的な運営についての研修をお願いしたい

・一回だけの研修ではなく、複数回（年一回で 4 年にわたるような）で
スキルアップしていくような機会があればよい

・佐賀県との取組強化

・研修等の時間数を多く取らなくてもできると導入しやすい

半構造化インタビュー結果

5. 半構造化インタビュー結果

5.1. 調査概要

2023 年 8 月 21 日（木）、8 月 28 日（月）に一般社団法人　全国専門学校教育研究会に加盟している専門学校 123 校のうちインタビューに快諾された教務責任者を対象に、約 1 時間の半構造化インタビューを実施した。

インタビューは熊本大学(講座関連調査・開発・実証担当)合田を中心に、学校法人三友学園(講座関連調査・実証担当)伊藤、学校法人郷学舎(講座関連調査・実証担当)吉橋、職業能力開発総合大学校(講座関連調査・開発・実証担当)半田、学校法人国際総合学園(講座関連調査・実証担当)猪俣が出席して実施した。

5.2. 調査対象・日程・方法

・穴吹ビジネス専門学校　矢吹先生

：2023 年 8 月 21 日（木）14:00-15:00、オンラインにて実施

：聞き手

…熊本大学　合田

…学校法人国際総合学園　猪俣

…職業能力開発総合大学校　半田

…学校法人三友学園　伊藤

…学校法人郷学舎　吉橋

・YIC 情報ビジネス専門学校　赤木先生

：2023 年 8 月 28 日（月）10:00-11:00、対面にて実施

：聞き手

…熊本大学　合田

…学校法人三友学園　伊藤

…事務局　飯塚

・麻生建築&デザイン専門学校　津嘉山先生

：2023 年 8 月 28 日（月）14:00-15:00、対面にて実施

：聞き手

…熊本大学　合田

…学校法人三友学園　伊藤

5.3. 質問項目

現在の役職・業務内容

・現在の役職について教えてください。

・どのような業務を中心にされていますか。

・他の教員の授業のサポートなどはされていますか。

授業コンサルティング(授業改善支援)の実施状況

・他の教員への授業コンサルティングを行っていますか。
　もしそうであれば、どのくらいの頻度で行っていますか。

・授業コンサルティングでは、どのような方法やアプローチを使用していますか。

・教員たちからの授業コンサルティングの要望やニーズはどのようなものでしょうか。
　具体的なテーマや領域はありますか。

・授業コンサルティングをする上でのやりやすさや効果を感じていますか。
　もしあれば、その理由を教えてください。

・授業コンサルティングにおいて直面している課題や困難な点はありますか。
　もしあれば、具体的にお教えください。

・教員たちからのフィードバックや評価はありますか。
　それに基づいて自身のアプローチやスキルを改善することはありますか。

・授業コンサルティングの成果や効果をどのように評価していますか。
　具体的な指標や評価方法はありますか。

・授業コンサルティングに関連して今後取り組みたい課題や改善点はありますか。

今後開発する研修への要望

・今後開発する研修に対する要望や意見などあれば教えてください。

5.4. インタビュー調査結果

5.4.1. 穴吹ビジネス専門学校　矢吹先生

現在の役職・業務内容

現在の役職について教えてください。

：教務部所属

どのような業務を中心にされていますか。

：動物美容学科の担任業務

：科目指導（動物美容ならびに看護学科の座学/ 実習授業）

他の教員の授業のサポートなどはされていますか。

：人手が必要な授業（動物を扱う実習授業等）のサポートをしている

：３年前には新人教員に対して授業のやり方についてのサポート（シラバス作成方法、授業展開方法）をしていた経験がある

授業コンサルティング(授業改善支援)の実施状況

他の教員への授業コンサルティングを行っていますか（Yes, No）。

もしそうであれば、どのくらいの頻度で行っていますか

（対面、オンライン、1on1、大人数）。

：行っている

：穴吹教育総合研究所による授業コンサルティングは教員全員を対象に年に一度行われている

：学園全体の研修会は定期的に実施している

：しかし、学校単位では授業コンサルティングの担当がいるわけではない

授業コンサルティングでは、どのような方法やアプローチを使用していますか

（対面 1on1、FD 研修、そのほか）。

：対面研修やオンライン研修を実施している

：他教員の授業見学を行い、穴吹学園全体で統一された評価項目に基づきフィードバックを実施する

：穴吹教育総合研究所がシラバスや授業計画書のチェックと授業参観を行い、評価項目に基づき改善案を提案する

※穴吹教育総合研究所とは、教育水準を向上・改善するための統括組織である
また、各学校の校長、副校長、教務部長、専任スタッフで組織されている

教員たちからの授業コンサルティングの要望やニーズはどのようなものでしょうか。

具体的なテーマや領域はありますか。

：N/A

授業コンサルティングをする上でのやりやすさや効果を感じていますか。

もしあれば、その理由を教えてください。

：スマホ世代の若手教員は ICT を活用した授業コンサルティングを取り組みやすいが、
　年配の教員は取り組みにくい

授業コンサルティングにおいて直面している課題や困難な点はありますか。

もしあれば、具体的にお教えください。

：授業改善を行う必要があることは認識しているものの、現場での活用は難しい

：各教員のシラバスや授業ノウハウの共有が十分ではない

教員たちからのフィードバックや評価はありますか。

また、それに基づいて自身のアプローチやスキルを改善することはありますか。

：他教員の授業見学を行い、穴吹学園全体で統一された評価項目に基づきフィードバックを実施する

授業コンサルティングの成果や効果をどのように評価していますか。

また、具体的な指標や評価方法はありますか。

：穴吹学園全体で統一された評価項目に基づきフィードバックを実施する

：評価項目と学生からのアンケート結果に基づき人事評価がなされる

：学生からのアンケート結果・授業見学・検定取得率を総合的に考慮し
　Good Teacher 賞を表彰している

授業コンサルティングに関連して今後取り組みたい課題や改善点はありますか。

：授業改善をする必要性は感じているが、授業コンサルティングを継続的に実施する場合、
　日常業務を後回しにしなくてはならない

：授業コンサルティング専用の部署や教員を設置すれば可能かもしれないが、
　他教員の仕事や役割を調整しつつ新たに時間を設けることは難しい

：授業コンサルティング研修の時間を定期的に設けるのであれば可能かもしれない。

：新人研修の段階から授業コンサルティング研修を受ける必要がある、
　と進めた方が入りやすいかもしれない

：授業改善コンテストが賞金やボーナス査定に繋がるとやる気が出るかもしれない

授業コンサルティングを起点とした教員コミュニティを作りたいと考えていますが、
うまくいくと思いますか。
：現状では難しいと思う（授業や学生指導を優先する必要があるため）
：授業改善をしたいと考えている教員は独自（個別）に勉強をしている

今後開発する研修への要望
今後開発する研修に対する要望や意見などあれば教えてください。
：研修を通して授業改善に対する教員の意欲が高まってほしい
：公務員系や資格系の授業における効果的な動画教材活用方法かは思いつかない現状にあるため、PPT といったより手軽な ICT ツールの活用方法を学びたい
：授業コンサルティングを組織に浸透するためには、新人研修のうちから ICT 活用研修を行う必要があると考える

5.4.2. YIC 情報ビジネス専門学校　赤木先生

現在の役職・業務内容
現在の役職について教えてください。
：情報ビジネス科　学科長

どのような業務を中心にされていますか。
：学科運営（カリキュラム作成・修正業務）、学科授業、学校広報、学生就職指導
：DX 委員会に所属し、DX 推進を実施している

他の教員の授業のサポートなどはされていますか。
：精神面が安定しない学生等をサポートする際に、非常勤講師のサポートを実施している
：新人教員への教授力のサポートを行っていた
：ただし、最近はサポートを行えていない

授業コンサルティング(授業改善支援)の実施状況
他の教員への授業コンサルティングを行っていますか（Yes, No）。
もしそうであれば、どのくらいの頻度で行っていますか
（対面、オンライン、1on1、大人数）。

：実施している
：年に 2 度、YIC グループ全教員を対象にグループワーク、メンタルヘルス、
コミュニケーションスキルの向上研修等を実施している
*研修内容は教員アンケートの内容を踏まえて実施する
：授業コンサルティングに際して委員会を設置している（月 1 度の開催）

授業コンサルティングでは、どのような方法やアプローチを使用していますか
（対面 1on1、FD 研修、そのほか）。
：対面研修やオンライン研修を実施している。
：新人教員として、研修の一環として 1 年間ベテラン教員の授業見学、
模擬授業、OJT 研修を実施している
：授業へのフィードバックは口頭で実施しており、記録はしていない。
：教員個人の悩みを聞き出し、改善方法を提案する場合もある
：教員によって温度感は異なるものの、研修に積極的という文化がある
：新しい情報を得るために、外部講師による研修も実施している
：学校の垣根を超えた委員会（DX 委員会等）を設置し、コミュニケーションを取っている

教員たちからの授業コンサルティングの要望やニーズはどのようなものでしょうか。
具体的なテーマや領域はありますか。
：授業改善のみならず、新しいことを学びたい（メンタルヘルス研修等）
：ツールのデジタル化に伴い、非デジタル系講師に対する 365
（Teams、Google フォーム）を活用した効率化

授業コンサルティングをする上でのやりやすさや効果を感じていますか。
もしあれば、その理由を教えてください。
：N/A

授業コンサルティングにおいて直面している課題や困難な点はありますか。
もしあれば、具体的にお教えください。
：専任で授業コンサルティングができる教員が居ない
*ベテラン教員の多忙化に伴い、現在はベテラン教員による模擬授業の
フィードバックを行えていない現状にある（過去は行っていた）
：企業を辞めた教員が、学生に分かりやすく指導できない場合がある

：授業コンサルティングとしてベテラン教員が OJT 研修を行う場合もあるが、
経験頼りの OJT 研修となっている
：学校内で教育 DX の推進のために ICT 活用を推進する必要性を認識しているが、
実際に ICT 活用を促せる教員がいない

教員たちからのフィードバックや評価はありますか。
また、それに基づいて自身のアプローチやスキルを改善することはありますか。

：年に 2 回行われる学生からの授業アンケートをもとに管理職が
フィードバックを行っている
：アプローチやスキルの改善は研修を通して各教員に委ねている。
：「書類管理等のアナログ業務の DX 化」「教育業務の DX 化」を
進めてほしいという要望がある
：とりわけアナログ業務の DX 化についての不満は多い
：PBL などの実課題に基づいた取り組みを行いたいという要望がある

授業コンサルティングの成果や効果をどのように評価していますか。
また、具体的な指標や評価方法はありますか。

：学生の国家資格取得率・就職率・学生の授業アンケート結果をもとに
評価をしているが、絶対的な指標は無い

授業コンサルティングに関連して今後取り組みたい課題や改善点はありますか。

：DX 委員会を活性化し、業務 DX と教育 DX（ICT 活用）を促す
→そのために、各学校へのヒアリングを実施する予定である
：教科書の代替として動画教材を活用したい
：新学科設立に際し、授業の評価方法、課題設定、新人教員への教育指導方法等を
検討し、新人教員をサポートする必要がある

授業コンサルティングを起点とした教員コミュニティを作りたいと考えていますが、
うまくいくと思いますか。

：すでにコミュニティが存在し、運営されている
：各学校を超えて情報共有を行う委員会体制を取っている
*書類管理委員会、DX 委員会、広報委員会等
：委員会で出てきた要望が、経営会議にて議論される

今後開発する研修への要望

今後開発する研修に対する要望や意見などあれば教えてください。

：管理職（直接評価する-評価されるの関係）ではなく、第三者的な立場の教員
（高校教員だった方、定年退職をした方）が授業改善サポーターになることで、
安心して授業改善できると考えている

*学校教員は文科省の教職課程を十分学んでいるため

：高校と専門学校が連携し、互いの授業を評価することで授業改善をする機会が
あれば良いと思う

：前回の ICT 活用研修のようなモデルカリキュラムを用意してほしい

5.4.3. 麻生建築&デザイン専門学校　津嘉山先生

現在の役職・業務内容

現在の役職について教えてください。

：教務部　主任

どのような業務を中心にされていますか。

他の教員の授業のサポートなどはされていますか。

：授業改善コンサルティングの専任ではないものの、月に 1 度、
1~2 年目の教員に向けた授業改善研修を実施している

：学校業務の指導と、授業改善コンサルティングを実施している

→これらの業務は、自ら積極的に行っている（授業改善に係る役職があるわけではない）

授業コンサルティング(授業改善支援)の実施状況

他の教員への授業コンサルティングを行っていますか（Yes, No）。
もしそうであれば、どのくらいの頻度で行っていますか
（対面、オンライン、1on1、大人数）。

：行っている

：学校配属前の研修として、指導案作成の研修や模擬授業を実施している

：以前は、1 年目教員の指導をベテラン教員が 1 対 1 でチュータリングを実施していた

：目先の業務のみならず、数か月後の業務内容についてのレクチャーも実施している

：年に一度、非常勤講師を含めて、学校運営における指針や目標を共有する会を
実施している

：授業ロールプレイや、出席の取り方指導も実施している
：新人教員がベテラン教員に積極的に相談・ベテラン教員の授業見学をし、
　ベテラン教員は新人教員の相談に乗る風土を作っている
：教える内容ではなく、教え方に対してのフィードバックを実施する
：各校での授業コンサルティング以外にも、教育推進グループも存在し、
　麻生塾全体の教育力を向上させるための年間教員研修を企画している
：教育推進グループが新人教員向けの「新任教員の心得」と
「授業見学アドバイスシート」を作成しており、今回はアドバイスシートをもとに新人研修を実施した
（アドバイスシートは、学生の授業アンケートの観点とは異なる）

授業コンサルティングでは、どのような方法やアプローチを使用していますか
（対面 1on1、FD 研修、そのほか）。
：2 年目教員に対して、以下を実施している
→上半期は学生授業アンケート（学生による授業スピード、資料の見やすさ、
　教員への要望などの 5 つの項目）を実施し、その結果をもとに教員が授業改善を
　するよう促した。その上で、校長代行、校長代行補佐とともに授業見学をした
→「授業見学アドバイスシート」に記載し、フィードバックを実施する
：下半期も、夏休みに ID の一環として e ラーニング講習を受講してもらった上で、
　自らの授業を録画・改善に向けた振り返りをするよう促した

教員たちからの授業コンサルティングの要望やニーズはどのようなものでしょうか。
具体的なテーマや領域はありますか。
：N/A

授業コンサルティングをする上でのやりやすさや効果を感じていますか。
もしあれば、その理由を教えてください。
：やりやすい
：自分自身が後輩育成に使命感を持っているため、
　楽しく授業コンサルティングを実施している
：新人教員が多く入ってきたからこそ、体系的に授業コンサルティングをする
　必要があると考えた
*麻生塾グループ全体の専門学校と比べて、同校に転職してきた
　新人教員の 3 年目以内離職率は低い

：社会人マナーを教えるという必修授業を担当している関係上、新人教員に学生の近況をシェアしやすい立場にいるので、新人教員へのフォローはやりやすい

授業コンサルティングにおいて直面している課題や困難な点はありますか。
もしあれば、具体的にお教えください。
：3 年目以降の中堅教員への授業改善コンサルティングが難しい
：中堅教員が指導的な立場の教員へ授業見学することはない
：（授業アンケート評価が低い場合を除き、）指導的な立場の教員が中堅教員の授業見学をする余地が無い現状にある
*中堅教員は自分の授業の型を確立しているため
：授業改善コンサルティングを受けた若手教員は「自分がベテラン教員になった」と思い込み、いきすぎた判断をしてしまう時がある
→過度な自己有能感を抑えることに困難さを感じる
：授業の内容は悪くないが授業の方法をアドバイスすることが難しい
（20 代の若手教員は授業の内容は良いものの、平坦に話してしまう。そのうえで「授業にメリハリをつけよう」とアドバイスをしても、一言のアドバイスで改善するものではない。）

教員たちからのフィードバックや評価はありますか。
また、それに基づいて自身のアプローチやスキルを改善することはありますか。
：若手教員は授業見学によるフィードバックを受ける
：学生アンケートや自身の授業録画を通して自分の授業を振り返る
：授業録画の振り返りの際にも、「授業見学アドバイスシート」を活用する
*中堅教員は評価を受け、改善する機会に乏しい

授業コンサルティングの成果や効果をどのように評価していますか。
また、具体的な指標や評価方法はありますか。
：「学生アンケート」「授業見学アドバイスシート」「ID に基づいた録画授業」をもとに成果や効果を評価している
：ただし、若手教員が自分の授業が改善したという実感が持てるかどうかが不安である

授業コンサルティングに関連して今後取り組みたい課題や改善点はありますか。
：録画を実施することで、自分の授業を客観的に評価する

授業コンサルティングを起点とした教員コミュニティを作りたいと考えていますが、
うまくいくと思いますか。
：うまくいくと思う（既にうまくいっている）
：1 年目の教員同士で日ごろの悩みを共有する場を月 1 回設けて、解決を図っている
：学科単位の教員コミュニティ（担任学年、担任クラス、教員歴が異なる）があり、月に 1 度、対面での会議を行っている
：教員コミュニティでの会議では、学生の成長を促す方法について議論をしているが、教員は意欲的に会議に出席している
*学年単位（学科横断型）の教員コミュニティもある

今後開発する研修への要望
今後開発する研修に対する要望や意見などあれば教えてください。
：若手教員向けの体系的/ 継続的な授業改善プログラムが欲しい
：組織的なバックアップが欲しい
：兼任ではなく、授業改善コンサルタントの専任教員が欲しい
→管理職が授業改善をせざるを得ない現状ではあるが、専任教員という立場があると、授業見学を実施しやすくなると考えている（その結果、授業改善に繋がると考えている）
：研修を行うことで、（授業改善以外にも）他の専門学校の情報も得たい
：教員ごとで学びの視点が異なる点や、協力して授業改善が出来るため、授業改善サポーターは 2 人ペアを対象に研修を行えると良い
：授業改善を行うためのポイントが明記されていると嬉しい

6. 分析結果と考察

アンケート調査を実施した結果、以下のことが分かった。

6.1. 授業コンサルティングへの要望とニーズ

アンケート調査の質問「（9）他教員からの授業コンサルティング内容への要望やニーズはどのようなものがありますか。具体的なテーマや領域を教えてください。」の回答から、主に【学生対応に関わる要望・ニーズ】、【就職に関わる要望・ニーズ】、【授業内容の改善に関わる要望・ニーズ】、【ICT 活用に関わる要望・ニーズ】が挙げられた。

さらに、【学生対応に関わる要望・ニーズ】に対応するためには、退学や不登校の問題を抱える学生や学生のレベル差を埋める方法を理解していること、【就職に関わる要望・ニーズ】には学外（社会）

状況を適切に把握し学内での就職指導に役立てること、【授業改善に関わる要望・ニーズ】には授業の質を向上するためのアドバイスを適切に行えること、【ICT 活用に関わる要望・ニーズ】には ICT 機器のことを理解し教員にアドバイスを適切に行えることが求められることが示唆された。なお、ここで「授業の質」とあるが、ここでの「授業の質」とは「検定合格率の向上」や「学生の理解度を上げる」など、授業の内容を充実化したものだと予測される。

また、【ニーズに関する要望なし】という回答から、翻って教員が意図せず抱えている問題を発見できることも求められることが示唆された。ただし、【授業内容の改善に関わる要望・ニーズ】について多く寄せられている点から、【授業内容の改善に関わる要望・ニーズ】は、教務責任者の課題意識が高い要望・ニーズであると推察される。

また、他教員からの授業コンサルティング内容への要望やニーズに対応するためには、授業コンサルティングを受ける教員と教務責任者との間でのコミュニケーションが必須であるだろう。そこで、教員間のコミュニケーションのきっかけを作れることもまた、授業改善サポーターに必要な資質であると推測された。

6.2. 授業コンサルティングを行う上での「やりやすさ」や「有効性」

アンケート調査の質問「（10）授業コンサルティングを行う上で、「やりやすさ」や「有効性」を実感している場合、その理由を教えてください。」の回答から、授業コンサルティングを行う上で「やりやすさ」や「有効性」を実感している理由として、【授業評価・授業内容に関する理由】、【個別対応に関する理由】、【新人対応に関する理由】、【組織・チームによる対応に関する理由】が見られた。

具体的には【授業評価・授業内容に関する理由】としては、学生による授業評価アンケートやコマシラバスといった客観的に授業内容を検討・評価するツールの活用や研究授業の観察とフィードバックが行われていること、【個別対応に関する理由】では、きめ細かな個別対応が行われていること、【新人教員対応に関する理由】では、新人教員向けにカスタマイズされた研修や不安の除去をしていること、【組織・チームによる対応に関する理由】は教科の垣根を越えたアドバイスを実施していること、（「有効性として教員相互に確認することで共有とそれぞれに成長を感じる」という点から、）教員各々が成長を実感していることが示唆された。

また、特に【授業評価・授業内容に関すること】が多いことから、教務責任者の多くは学生による授業評価アンケートやコマシラバスといった客観的に授業内容を検討・評価するツールの活用や、研究授業の観察とフィードバックを通して授業コンサルティングを実施しているといえる。

「麻生建築&デザイン専門学校　津嘉山先生」へのインタビューからは、津嘉山先生自らが授業コンサルティングを実施しており、出席の取り方といった教科に囚われない汎用的な教授法を教えていることが明らかになった。また、自身が自ら授業コンサルティングを行うことに「使命感」を持っていた。

ここから、授業コンサルティングを行う際には、授業コンサルタントが授業を改善するためのモチベーションの維持が求められることが考察される。

また、授業コンサルティングがうまくいっている理由として、学科・学年単位での教員コミュニティが機能しているからということも明らかになった。そこから、授業コンサルティングを推進するためには、授業改善サポーターの資質を高めるのみならず、教員コミュニティを活性化することで授業改善を目指すことも重要であることが考察できる。

6.3. 授業コンサルティングにて困難な点

アンケート調査の質問「（11）授業コンサルティングにおいて直面している課題や困難な点はありますか。もしあれば、具体的に教えてください。」の回答から、授業コンサルティングにおいて直面している課題や困難点は、【ICT 活用に関する課題】、【教員不足による時間確保に関する課題】、【教員の姿勢に関する課題】、【組織体制・環境に関する課題】、【授業に関する課題】、【学校環境に関する課題】、【学生に関する課題】、【授業評価に関する課題】が散見された。これらの課題を解決する能力を持つことが、授業改善サポーターに求められる資質であることが示唆された。とりわけ【教員不足による時間確保に関する課題】、【教員の姿勢に関する課題】、【授業の内容改善に関する課題】が多く寄せられていることも明らかになった。特に多い回答は、指導される側の教員が授業改善のためのアドバイスを受け入れることが出来ない、といった【教員の姿勢に関する課題】と、授業改善のためのアドバイスが一般的なものになりがちであるといった【授業の内容改善に関する課題】は特に多く挙げられていた。そこで、限られた時間の中で効率的に授業を改善し、教員の授業への姿勢と授業の内容改善のアドバイスができることが授業改善サポーターに求められることが示唆された。

また、「穴吹ビジネス専門学校　矢吹先生」への半構造化インタビューから、授業コンサルティングは、オンライン・対面研修や穴吹教育総合研究所（授業改善のための統括組織）による見学・評価項目に基づくフィードバックで行われているものの、教員業務の多忙化を踏まえると、現場の教員が専任の授業改善サポーターとして活動することは難しい、ということが分かった。

6.4. 授業コンサルティングにあたり実施されている具体的な指標や評価方法

アンケート調査の質問「（14）授業コンサルティングの成果や効果を評価するにあたり、 実施されている具体的な指標や評価方法を教えてください。」の回答から、授業コンサルティングの成果や効果を評価するためには、②でも見られたように、学生による授業評価アンケートやコマシラバスといった客観的に授業内容を検討・評価するツールの活用が行われていることが明らかになった。これは、

「（10）授業コンサルティングを行う上で、「やりやすさ」や「有効性」を実感している場合、その理由を教えてください。」にて、学生による授業評価アンケートやコマシラバスといった客観的に授業内容を検討・評価するツールの活用や研究授業の観察とフィードバックが挙げられたことと通底している。

6.5. 授業コンサルティングにあたり今後取り組みたい課題や改善点

⑤アンケート調査の質問「（15）授業コンサルティングに関連して今後取り組みたい課題や改善点はありますか。」の回答から、教務責任者が授業コンサルティングに関連して今後取り組みたい課題や改善点としては【指導力向上に関する課題】、【学生のアプローチに関する課題】、【教員の質を向上する課題】、【授業改善に関する課題】、【授業改善サポート頻度に関する課題】、【組織体制に関する課題】、【ICT に関する課題】であることが明らかになった。

ただし、ここでも【指導力向上に関する課題】、【学生のアプローチに関する課題】、【教員の質を向上する課題】、【授業改善に関する課題】、【授業改善サポート頻度に関する課題】といった、授業内容に関わる課題は多く見られたため、教務責任者にとってそれらを重く受け止めていることが分かった。また、アンケート項目「（8）授業コンサルティングを実施する主体として、専門の部署・チームは存在していますか。」の回答にて約半数が「存在していない」と回答した結果と、改善点として挙がった【組織体制に関する課題】からは、今後の取り組みとして組織的な授業改善コンサルティングの体制づくりが求められることが示唆された。

また、「YIC 情報ビジネス専門学校　赤木先生」へのインタビューからも、教員のニーズに併せて研修を行うことで授業コンサルティングを実施しているものの、授業改善コンサルティングを専任で行うことは難しいという課題が明らかになった。①②から、授業改善サポーターとして教務責任者が機能するためには、限られた時間の中で効果的に授業改善を行うということが考察される。

7. 結論

授業改善サポーターに求める資質として、以下の資質が求められるという仮説を立てられた。

まず、「6-1.授業コンサルティングへの要望とニーズ」からは、以下の 1.から 6.の仮説を立てることが出来た。また、「6-3. 授業コンサルティングにて困難な点」からは、7.の仮説を立てることが出来た。

1. 退学や不登校の問題を抱える学生や学生のレベル差を埋める方法を理解していること

・退学や不登校の問題を抱える学生や学生のレベル差を埋める方法を理解していること

・モチベーションが低い学生、障害を抱えた学生、低額力の学生、
多様化する学生に対しても効果的な授業を行うこと

・問題を抱える学生対応を教員一人で抱え込まないようにケアすること

2.学外（社会）状況を適切に把握し学内での就職指導に役立てること

・企業が求める人材育成に合ったカリキュラムが実施されているかが分かること

**3.授業の質（検定合格率の向上、学生の理解度を上げる等）を
向上するためのアドバイスを適切に行えること**

・限られた時間の中でより効果的にアドバイスをすること

・板書、出席の取り方、教材の効果測定等、授業全般のアドバイスができること

・授業アンケート結果を適切に読み解き、効果的にフィードバックできること

4.教員が意図せず抱えている問題を発見できること

・教員経験が長く日々の業務に慣れが出てきた教員の授業改善意欲を高めること

・教員経歴や経験が長い教員でも気づきが得られる声掛けをすること

5.教員間のコミュニケーションのきっかけを作れること

・教育コミュニティ定期的に主催すること

・授業改善を組織的に取り組み、互いのノウハウを共有する関係を作ること

・ベテラン教員が新人教員にアドバイスする機会を設けること

・十分な時間が取れない場合でも、職員室内で情報共有ができること

6.ICT 機器のことを理解し教員にアドバイスを適切に行えること

・ICT 機器を活用したアクティブラーニングができること

・効果的なオンライン授業ができること

7. 教員のモチベーションを下げずに、適切なアドバイスができること

・各教員が受け入れ、実行したくなるようなアドバイスを実施すること

・教員の年次に関わらずアドバイスができること

→①～⑥を効果的に涵養するための研修が必要

→アンケート全体で授業改善に関する回答が多いことから、③は特に求められる。

一方で、授業改善サポートをする際には、以下を踏まえる必要がある。

・限られた時間の中で効率的に授業を改善し、
　教員の授業への姿勢と授業の内容改善のアドバイスをする必要がある。

・授業内容に関わる課題に優先的に対応をする必要がある。

・組織的な授業改善コンサルティングの体制づくりが求められる。

以上

8. 資料

アンケート依頼文

令和５年８月 18 日

教務ご責任者 様

令和５年度文部科学省委託事業

授業改善サポーター養成講座の開発事業

ＷＧリーダー　猪俣 昇

令和５年度文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」

（教職員の資質能力向上に必要な教職員研修プログラムの構築・普及・推進）

『授業改善サポーター』の人材像と必要な資質等を把握する調査（お願い）

拝啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本研究会は令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」（教職員の資質能力向上に必要な教職員研修プログラムの構築・普及・推進）を文部科学省より受託しております。

令和４年度文部科学省委託事業として株式会社三菱総合研究所が取りまとめた職業実践専門課程の質保証・向上のための実態調査報告の中で、専門学校の教員は、実務には自信があるが、生徒の理解や指導、教育に必要な知識や技能に不安を感じていることが発表されました。本事業では、この解決策として、学内に指導力等の向上を牽引する授業コンサルテーションができる中堅教員を配置し、若手教員に対して適切なアドバイスやサポートを行い教育の質を向上させる必要があると考えています。

このことから、授業の観察や評価、教員のカウンセリングやコーチング、授業改善に関するアドバイスや提言の提供、教員の授業計画や教材の開発支援等ができる人材『授業改善サポーター』を育成するための講座を開発致します。

つきましては、本事業の趣旨をご理解のうえ、各専門学校の教務ご責任者様へのアンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

まずは、略儀ながら、書中をもってお願い申し上げます。

敬具

記

１．回答期限　　**令和５年９月８日（金）**

２．対　　象　　専門学校の教務責任者様（課長級以上、複数在籍の場合複数回答可）

３．内　　容　　『授業改善サポーター』の人材像と必要な資質等を把握する調査

４．回答方法　　下記 URL よりご回答ください。

https://forms.gle/2MgEmrpPMVxuo9zLA

以上